



1階バリアフリートイレ入り口と、男女別トイレ入り口。トイレは入室すると、自動で照明が点灯する。

学校  
トイレ事例  
05  
改修

## 奈良県香芝市

# 香芝市立香芝東中学校



左より小西友吉さん(香芝市教育長)と、玉村晃章さん(香芝市教育部教育総務課)

「これからの時代」の前例に  
新しいトイレで多様性を考える

生徒の不安を  
消してあげたい

「心の中に、もやもや」とした不安を抱えている生徒たちの、解決策になればと思ったのです」

香芝市教育部教育総務課の玉村晃章さんは力強く語ります。

香芝市では施設の長寿命化、老朽化対策の一環として、学校トイレの床を湿式から乾式に、そして、和式便器から洋式便器への変更を進めています。その中でも、香芝東中学校は男女別トイレの改修に併せて、性の多様性へ配慮した男女共用の「だれでもトイレ」が新設されました。

「だれでもトイレ」はその名前の通り、誰もが自由に使用できるトイレです。トイレ内には手洗いも配置されており、用足しから手洗いまでの一連の流れを個室内で行うことができます。学校生活において、毎日必ず利用する場所の一つであるトイレ。そんなトイレを「全員が落ち着いて使用できるように」という思いを込めて、今回新たに設けられました。

トイレの入り口は一つに設計され

ています。入り口を抜けると、男子トイレ、女子トイレ、そして「だれでもトイレ」と分かれ、廊下からは生徒がどのトイレに入ったかわからないよう動線が工夫されています。「少しでも『だれでもトイレ』を多く設置した方が、利用が促進される」(玉村さん)と、改修前の男女別トイレの一角を削り、2ブースを設置しました。個室内にはフイッティングボードが備えられており、教室での更衣に抵抗のある生徒が、トイレで着替えを済ませることも可能です。

「だれでもトイレ」は  
なくてはならないもの

男女共用個室トイレは香芝市にとつても初めての試みでした。この結論にたどり着くまで、多くの議論が交わされたといえます。

「男子生徒が使った後に、女子生徒が抵抗なく入ることができているか。新設したところで、本当に使ってもらえるのか。反対の意見もあり、悩みましたね」(玉村さん) 設備が多くなることで、工事費用が高くなってしまうことも争点でした。

香芝市ではその後、愛知県豊川市の小学校を訪れ、男女共用のトイレを視察して回ったり、性の多様性に関するセミナーを受講したりと、教育委員会内でも知識を深めていきました。その結果、「あった方がいいということではなく、なければならぬ子がいることがわかりました」（玉村さん）と、設置を決定しました。

香芝東中学校は標準服においても生徒たちへの配慮がなされています。2020年に導入された新しい標準服では、ブレザー、ポロシャツは男女ともに同じデザインに設定。ネクタイやリボンといった、男子らしさ・女子らしさを表す装飾品は採用されていません。そして、性別を問わず、スラックス、スカートどちらでも好きな方を選ぶことができます。

「寒い日に、女子生徒がスラックスをはいて登校しているのを何度も見かけたことがあります」と、香芝市教育長の小西友吉さんは話します。

### 少しずつ、学校が変わっていくのを実感

香芝東中学校の1階には、車いす使用者もゆったりと利用することができ、バリアフリートイレが設置されています。バリアフリートイ

レには温水洗浄便座を採用。オストメイト対応設備やフイッティングボードも備えました。

改修前の香芝東中学校のトイレは、いわゆる5K（汚い・臭い・暗い・怖い・壊れている）に近い状態でした。新しく生まれ変わった学校トイレは明るく清潔で、井上直規校長先生（取材時）は「子どもたちも、以前よりトイレを大切に使うようになりました」と語ります。

学校に通う生徒からも「ホテルのトイレのようになってうれしい」「これまででは、トイレから出入りするたびに古い扉のきしむ音が響いて恥ずかしかった」「前はトイレへ行くのを我慢していた。今は気軽に使用することができると喜びの声が多数届いています。利用が懸念されていた男女共用個室トイレも、「初めは使う人が少なかったけれど、今はいろんな子が入り込んでいるようです」と、女子生徒は語ります。

「子どもたちは自分が通う学校を選ぶことができます。今後も改修を推進し、できる限りの学習環境を整えてあげたい」（玉村さん）「いい事例ができれば、それに倣う学校もどんどん出てくると思います。教育現場にそうした好循環が生まれることを期待しています」（小西さん）



1階女子トイレ。利用時のプライバシーに配慮し、大便器ブースには擬音装置を設置。荷物置き棚は学校の要望で備えた。



1階女子トイレ。手洗いは自動水栓を採用。各トイレには液体石けんも設置されている。



1階バリアフリートイレ入り口。中にある設備が一目でわかるよう、サインが大きく掲げられている。



1階バリアフリートイレ。車いす使用者も利用できるゆったりした広さに、オストメイト対応設備や温水洗浄便座を備えた。



(上)1階トイレのピクトサイン。男女の色分けをせず、色味はブラウンに統一した。  
(右)SDGs学習の一環として、学校内でトイレアンケート調査を実施してまとめたレポート。約9割の生徒が「使いやすくなった」と回答。





3階「だれでもトイレ」。淡いグリーン of 壁材と、大理石調の床材で清潔感のある空間に。床材は壁面に立ち上げて清掃性に配慮。



3階「だれでもトイレ」。個室には手洗いと鏡、擬音装置やフィッティングボードが備えられている。

3階「だれでもトイレ」入り口。多様な利用者に配慮して、2・3階には男女共用で利用できる完全個室型のトイレを2カ所ずつ設置している。

3階男子トイレ。ユニバーサルデザインに配慮し、大便器ブースの1カ所は手すりを設けている。



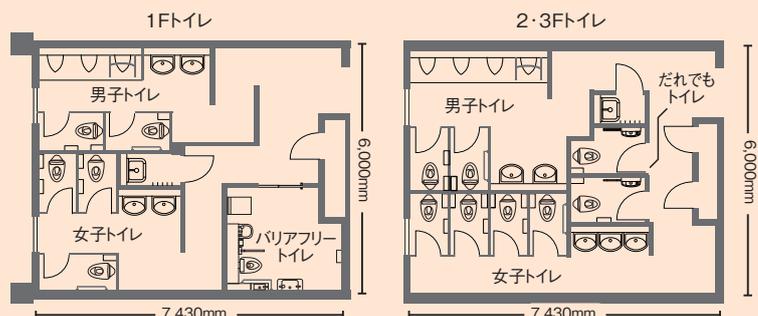
香芝東中学校の生徒たち。2020年に新しく導入されたプレザー以外に、旧タイプの標準服の着用も認められている。



3階男子トイレ。小便器は清掃性や節水性に優れた自動洗浄タイプの壁掛小便器を採用。小便器下の床には汚垂れ石を設置した。

## 香芝市立香芝東中学校DATA

名称：香芝市立香芝東中学校  
所在地：奈良県香芝市真美ヶ丘2-12-27  
生徒数：611名(2021年5月)  
施主：香芝市  
設計・監理：尾川建築設計事務所  
施工：豊国  
竣工年月：2021年3月



1Fには男女別トイレと、車いす利用者も利用できるバリアフリートイレを、2・3Fには男女別トイレと男女共用の「だれでもトイレ」を設置した。